

2013年
1月11日
金曜日

利光 強 経済学部長

4年間の学生生活を振り返る ——社会人としての第一歩——

関学経済人」に掲載されています。将来、皆さんもこの欄に登場してください。

さて、経済学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー、略してDP）に基づいて、卒業必要単位を取得したものに学士号を授与します（経済学部ホームページに掲載されているので、卒業前に必ず見てください）。そのDPに書いてある基準を自分が果たして満たしているのか、どうか、社会へ出るまえに、きちんと自己判定をする必要があります。それが、社会人としての第一歩であると考えます。自分がどのような人間であるかをきちんと分析できていれば、社会に出てからも恐れることはありません。

大学の門戸は常に社会に対して開かれています。社会に出てからも学びなおしの機会はいくらでもあり

ます。そしてまた「卒業したので、関西学院大学と縁が切れた」ということはありません。皆さんは関西学院大学経済学部の卒業生として、これからの長い人生を送っていくことになります。その長い人生を送るなかで、大学のモットーであるMastery for Service（奉仕のための修養）を忘れないでください。それは、世界市民として社会のために何らかの形で貢献をしなければならぬというmissionを意味しています。そのための学生生活であったことを振り返り、自身の4年間を総括してください。

がすごしてきた学生生活4年間を振り返ってみてください。サークルや部活動、そしてバイトばかりの4年間では、少しさびしいと思いませんか。あるいは、ある新書のタイトルの出は「ニューカッツです」ということでは、あまりにも貧相な大学生活としか言えません。大学で確かな学びができたのか。社会に役に立つような力を身につけることができたのか。ぜひ、自己点検・自己評価をしてください。

確かに、短い4年間では、経済や経済学のことを深く学ばなかったと思います。ただ、社会や経済についてわずかながらでも興味や関心を持ち、自分で調べ、考えた経験が社会に出てから、きつと役に立つときがくると思います（そういつた経験談が、経済学部ホームページ「われら

過ぎてしまえば、大学4年間の学生生活はとも早かったと思われるでしょう。入学して間もなくの頃は、初めて体験すること（さまざまな説明会、Web上での履修登録、サークルや部活の勧誘、大学の授業、など）ばかり。右往左往しているうちに、初めての定期試験。夏休みでやっと一息。秋からどうにか学生生活（バイトや旅行、友達づきあい、など）をエンジョイしはじめ、2年生の秋学期から研究演習でのゼミナール活動。少しばかり経済や経済学に興味を持ったところで、3年生も終了し、シューカツ（就職活動）に突入。やっと内定をもらったと思ったら、卒業研究論文の作成。そして、単位の数を気にしながら卒業式へ。めまぐるしい4年間であったと思います。

そこで、卒業を目前にして、自分